

令和 8 年 8 月
農産園芸課

「かごしま茶」振興ビジョン（仮称）の策定に係る 地区別検討会の開催概要

1 日程等

(1) 開催月日、出席者等

月 日	地域名	場所	出席者数	備考
7 月 8 日（水）	大島	天城町農業センター他	4 名	WEB 併用
7 月 10 日（金）	北薩	北薩地域振興局	22 名	
7 月 13 日（月）	姶良・伊佐	霧島市牧園農村活性化センター	50 名	
7 月 13 日（月）	鹿児島・日置	鹿児島市松元支所	27 名	
7 月 15 日（水）	肝属	JA 鹿児島きもつき本所	22 名	
7 月 15 日（水）	曾於	曾於市大隅農産加工センター	20 名	
7 月 22 日（火）	南薩	南九州市知覧文化会館	28 名	
7 月 24 日（金）	熊毛	熊毛支庁及び屋久島事務所	30 名	WEB 併用
計	8 箇所		203 名	

(2) 参集範囲

茶生産者、市町村、農協、県（地域振興局・支庁、農産園芸課）

2 概要

県農産園芸課から「かごしま茶」振興ビジョン（仮称）の策定の目的や進め方、本県茶業をめぐる現状と課題等について説明。その後、担い手の育成・確保、有機栽培茶の生産拡大、リーフ茶の消費拡大、かごしま茶のブランド化などテーマを決めて、意見交換を実施。

主なテーマと出された意見等については、別添のとおり。

(別添)

テーマ	出された主な意見等	備考
1 担い手の育成・確保（労働力確保含む）	○ <u>建設業など他業者からの労働力を活用した事例</u>がある。4月～7月まで空いていたため、その期間に7～11人程度活用されていたと聞いている。<u>稼げる農業に変えていかなければ、新規就農者の増加も農村の繁栄もない。</u> (鹿児島・日置) ○ 草払い、被覆作業などについては、県や我々の方から建設業など様々な業種にアプローチをかけていった方がよいと思う。(鹿児島・日置) ○ 後継者が戻ってきても、勤めるというよりもどうしても後継者という立場であるため、十分な支援が行われていない。お茶の事業に関していえば一から始めるのは絶対できない。でも相手がいないと継続もできないので、そういうところで支援の見直しを行ってほしい。 (鹿児島・日置) ○ 出席者のほとんどの人が手で触って感覚で製造技術を学んでいたが、若い後継者は数字やデータに頼っており、<u>若手育成も時代の流れにあった対応</u>をしなければならない。(南薩) ○ 労働力の確保については、<u>人件費自体が高騰</u>し日本人にお願いすると単価が高い。草刈り等はデイワークでお願いし、いつものメンバーにお願いできているため、効率的に作業ができています。また、外国人労働者の活用も考え、宿舍の準備も必要であるため、空家を買うことも考えている。(南薩) ○ 技術的な後継者育成・確保が難しい。茶畑の管理はアルバイトでも対応できるが、農大を卒業した従業員がいるが一通り加工できるようになるまで5年以上かかる。やはり技術の伝承が必要である。(南薩) ○ 年間雇用については、お茶の閑散期に作業がないと難しい。スポット的な人材派遣を活用されている場面も多いと思うが、住居の問題が生じてしまう。市内(南九州市)には空き家があるため、関係部局で活用を検討していただければありがたい。市も空き家対策や家賃収入が上がるため良いと考える。(南薩)	

	○ 新規就農者には、国から数年間 150 万円が給付される制度があるが、親元就農は支援対象外で、これらの就農者に対する支援が十分でないと感じる。要するに親元就農への支援がないため、自分が後継者を受け入れる場合、1 人分多く稼ぐ必要があるため大変である。<u>親元就農に対して支援することで、安定して就農ができ、人の確保にも繋がるのではないか。</u>（北薩） ○ 今までの茶業情勢が厳しく後継者がいないところが多い。今後の茶業の状況が見通せないため、後継者が戻ってこない経営体がみられる。このままでは栽培面積を維持すら出来なくなる。そのため、事業継承など農業とは関係ない方でも茶業を担える仕組みが必要ではないか。（北薩） ○ 今はいいが、後継者が育たないのは先が読めないことが大きい。低迷時期が長かったこともあり、後継者がいても継がしていないのが現状ではないか。将来的な展望があれば残ると思う。（北薩） ○ 年間雇用となると、お茶だけでなく色々な品目の作業を組み合わせないと難しい。住環境整備も重要である。（北薩） ○ 弊社でも外国人技能実習生がいるが、制度の規制により他の会社で働けない。茶は 3 月から 10 月の労働で、それ以外は労力上余るので、他企業との連携ができればよいが、制度を改善いただきたい。（始良・伊佐） ○ 労働力の確保という観点で、大学生をアルバイトとして雇用している。労働人口が減少する中において、<u>労働者の働き方も変わってきており、継続的に人に来てもらうためには、会社の雰囲気づくりが重要であり、上から目線で指示するような昔ながらの働き方では持続的ではない。</u>（肝属） ○ <u>錦江町では、特定地域づくり協同組合が設立され、人材派遣の取組を進めている。</u>これらを上手く利用していけたらと考えている。（肝属）	
--	--	--

	○ ハローワークで募集しても人は来ない。給与を上げて も人は来ない。年間雇用を募集しても若い人は来ない。 派遣も人がいないし高い。外国人材を入れていかないと 回らない。<u>外国人材を受け入れるには、住居環境が必要</u> だが、空き家も多いのでそこは問題ないと思っている。 (曾於) ○ 馬毛島のこともあるが、茶単作では年間雇用が難しい ところなので、他の野菜と組んで人が移動するような仕 組みができれば良い。(熊毛)	
2 有機栽培茶の 推進	○ 茶工場同士で有機栽培を行う目的で、隣接する茶園を 有機栽培に転換するなどお互いで話し合いを進めれば、 意外と有機茶園の集約が進むと思う。(鹿児島・日置) ○ 有機に適した品種に植え替えると、収穫までに時間が 掛かるので、そういった面での支援があるとありがたい。 (南薩) ○ <u>他品目においてドローンによる農薬散布が多くなっ</u> ている。通常の散布であれば1m離れておけば良いが、 ドローンの場合、<u>緩衝地帯として3m離す必要</u>があるな ど、ドリフトリスクも高いため、対策も必要である。 (南薩) ○ 県の方でドローンを所有し、農薬散布を行っている事 業者を把握していく必要がある。(南薩) ○ 茶業の担い手が減少してるが、人口が減っているので しょうがない面もある。効率的生産ということで、色ん な品目でドローンによる農薬散布などが進んでいるが、 霧島市は有機栽培が多いのでドリフトが気になる。 (始良・伊佐) ○ 有機を推進する上で、乗用型のアタッチメントなどで 除草ができるようになってるが、乗用型管理機の乗れ る人材は限られる。別のメーカーで耕運機みたいな形を した機械が2月に開発されたところであり、こうした機 械を国や県の事業でも対象にしてほしい。そうすれば、 従業員やバイト、女性の方々にも活用してもらえる。 (始良・伊佐)	

	○ 現在、有機栽培を行っていない。<u>有機栽培に魅力を感じるが、病虫害被害による減収や除草作業にかかる労力を割けないので、取組には非常に勇気がいる。</u>(肝属) ○ 有機栽培は正直なところ、国の改植事業や環境直払などの補助金があるからやっている。他国の例だが、スリランカ政府が同じように輸出拡大戦略として、中国からお金を借りながら有機栽培を推進したが、30%減収したため抗議が起きた。短期的な視点はダメだが、安心して取り組むためにも補助金は必要。(曾於) ○ 茶園に隣接するサトウキビでスミチオンなどを散布するが、島だと日によって風が四方から吹くので風向きの予報を見て散布してもらうようお願いしている。 (熊毛)	
3 茶葉価格の受け止め・てん茶・抹茶への生産転換等について	○ 煎茶工場の処理能力が一杯との話もあり、過剰な分を農協で引き受ければ、生産者は高い生葉代を得られ、農協は原料を確保できる、ウィン・ウインの関係になるものと思う。(鹿児島・日置) ○ 令和6年からするとあまりにも高くなり、戸惑っているところが現状である。<u>茶農家は、これまで厳しい時代が長すぎたため。生産者からは、「単価はこんなに高くていい、安定していればありがたい。」との声をよく聞く。</u>製茶機械の整備を計画しても、機械メーカーが対応できない状況になっている。(南薩) ○ 県外にいる後継者に対して、現状があまりにも変化しているため、帰って茶を継いでほしいとは言えないのではないかと思う。茶を辞めた人も、今、景気が良いから再び茶を栽培したいという人は、体力の限界もありないと思う。茶の需給は、抹茶需要など世界的になっており、<u>先行きが見通せないが一番不安ではないか</u>と考える。 (南薩) ○ それぞれの<u>地域に中核となるてん茶工場があると助かる。</u>てん茶の原料の買い取り価格は良いと聞いている。経営的にも非常に助かる。(北薩)	

	○ 碾茶への転換によって、ドリンク原料を含めて価格が上昇している。生産者としても喜んで良いのか、驚いているところ。輸入も増加していることを心配しているが、お茶を売る人たちのことを考えると商売上必要なことと考える。（始良・伊佐） ○ お茶の価格が上がっている一方で、本当に海外で戦える「国際競争力のある価格」にはなっていないところであり、このままでは中国産にシェアを奪われてしまう。このグローバルな市場動向を見据えて、どういう戦略をとするのか、「有機・碾茶を増やしましょう」だけではなく、<u>安価な他国産との差別化戦略が必要</u>であり、例えば、フランスワインのように産地や製法にこだわり、ストーリー性を伝えることが大切である。（曾於） ○ 組合としては、これまでの茶価低迷の経験があるほか、後継者を含む<u>担い手がい</u>ないこと、<u>建設費の上昇もあり</u>、<u>新たな投資に対して躊躇する</u>ところ。行政として、何年くらいこの相場が続くと思うか。（熊毛） ○ <u>碾茶工場の建設希望はあるが、建設費が高騰する中で建てて、中国等の影響で大暴落したら借金だけが残るので悩みどころ。</u>（熊毛）	
4 リーフ茶の消費拡大について	○ コーヒーのようにスタイリッシュなカセットタイプの機械がお茶にあってもよいと思う。そうした機械をお茶メーカーが開発してくれれば、コンビニでも販売でき、リーフ茶の消費拡大につながるのではないかと。（鹿児島・日置） ○ お茶のよい香りや味を実際に経験させることが必要。リーフ茶を百円茶屋で提供するだけでは不十分ではないか。（鹿児島・日置） ○ 一度、県内のお茶好きを年齢制限なしで集めて会議をすれば、良いアイデアが出てくるのではないかと。（鹿児島・日置） ○ <u>消費量日本一に向けた動きを即実行してほしい。</u>生産量は一位になったものの、消費量は静岡県と比べて相当差がある状況であるので、先ず行動に移してもらいたい。（南薩）	

	○ 今、ティーパックは、かなり手軽で売れるということ でかなり伸びている。ティーパックの製造委託について、 県経済連、鹿児島パッカーズも同様に、需要に対して対 応できていないと聞いている。そのため、県内でこのよ うな<u>ティーパック需要に対応できるような業者を増やし ていく取り組みが必要</u>と考えている。(南薩) ○ 昔ながらの急須で飲むのは一緒かもしれないが、おし ゃれな透明な割れない急須を使うなど、若い世代が好む アイデアを考えてほしい。予算の関係もあるが、お茶の 淹れ方教室は継続してやってほしい。(南薩) ○ 淹れ方教室の趣旨は十分理解できていないが、リーフ 茶を飲ましていく目的であれば、形をかえて様々なやり 方があると思う。<u>どうしても急須でなければならないと いうのは文化的な側面であると思う。そういうところは 価値観の違い</u>と思う。(南薩) ○ お茶の淹れ方教室は、茶生産協会が急須を、インスト ラクター協会が茶葉をお土産として渡していた。県は是 非この取組が継続的に取り組めるように予算化していただ きたい。小学生でなく、これから一人暮らしをする高 校生・大学生を対象にしてもよいのではないかな。(北薩) ○ 町内に光陽オリエントジャパンという企業誘致がな され、仕上げ茶製造委託・加工が行われ、その会社がリー フ茶の消費拡大に向けた提案もしていただいている。 (肝属) ○ ティーハウスというところがあり、お茶を3gと急 須、お湯、お菓子、入れ方の説明書を渡して、自分のペ ースで楽しむ。このコト体験だけで4,000円のお金を とっているの、この「コト体験」という視点で消費拡大 に努めていただきたい。(曾於) ○ お茶の入れ方教室などで教えているが、生産協会か会 議所が作成したDVDが古いので、日本一になったこと を契機にリニューアルしてほしい。(熊毛) ○ <u>健康機能性を意識したPR</u>を進めてほしい。(熊毛)	
--	---	--

5 かごしま茶ブランド化・銘柄統一・販路拡大等について	○ 本県は他県にない様々な品種があるのが特徴である。それをもっと前面に出していけば、世界にも多様で特徴的な品種があることを知られるのではないか。 (鹿児島・日置) ○ 国内、県内だけを考えると、地域ブランドでよいが、<u>海外向けとなると、県として統一したブランドがあってもよいと思う。</u>(鹿児島・日置) ○ 「かごしま茶」とはこういうものだ、といったストーリーを持ち、世界の人々に認知されるためには「かごしま茶」で統一するのは必要と感じる。(鹿児島・日置) ○ 茶商協と「かごしま茶」をどう考えるのか話し合ったほうがよい。県内茶商も原料供給基地で、県外茶商にお茶を流していた。<u>茶商を交えて「かごしま茶」をどういう売り方で持っていくのか考えるべき。</u>個人でとか地域では無理。茶商が原料基地でなく製品を売る。県がそういう風に誘導するのが望ましいのではないか。 荒茶生産量は日本一かもしれないが、仕上茶率が伸びていない、消費量が伸びていない要因が何かと茶商としてしっかりと考えるべきではないか。(北薩) ○ 県外では「かごしま茶」は、深蒸しの茶と思っている。北薩では6%だが形状の産地で評価も高い。本県は様々な茶種や、製法、品種が魅力である。北薩のお茶を専門に扱う茶商があればとの想いもある。(北薩) ○ いろいろ地域があって特徴があるので、<u>「かごしま茶」での銘柄統一は難しいのではないか。抹茶の銘柄統一は可能性があるのかかもしれない。</u>(北薩) ○ 「かごしま茶」は日本一になったけど、どこで飲めるのかがわからない。地区のイベントで、試飲していただくと、ものすごく売れる。道の駅での試飲体験に補助を出すとか。観光客を含め、一般県民が広くお茶を飲めるよう支援していくべき。(北薩) ○ 種子島は静岡からの移住によって産地ができていますので、そのストーリーは消すことはできない。このような歴史もあり、これまで種子島のブランド名で販売してきた。「かごしま茶」の銘柄統一は望ましいことだが、このような状況を踏まえると統一は難しいと考える。 (熊毛)
------------------------------------	--

6 かごしま抹茶のブランド化、諸外国への対応	○ IMAという組織が、抹茶に関して様々なことを決めているところ、<u>IMAと連携してその取り組みを進めた方がよいのではないかと思います。</u>(南薩) ○ <u>中国の抹茶が台頭する中、社内でも検討しているが、やはり量よりも質という話をしている。</u>鹿児島としても良いものを作る必要があり、そのために<u>研修会等を実施してほしい。</u>(曾於) ○ スターバックスが抹茶ラテを導入して、これからはお茶の粉末化の時代が来て茶価が回復すると確信していたので、若い生産者を励まして転換を推進してきた。 ただし、このブームもいつまでも続くわけではなく、特に、このスパイク的な価格上昇は怖いところ。現に、欧州の小国では「抹茶はもう頭打ちだ」といわれ始めており、中国産に切り替わるところもある。(曾於) ○ 価格高騰もお茶の本来価値が上がったわけではなく、生産量が減って、希少価値が高くなったり、中間の流通事業者のプレイヤーが増えたことにある。(曾於) ○ お茶の付加価値を理解してもらうプロモーションを国・県が一体となってやっていかないと、この先は本当にあぶないので、<u>海外バイヤーや消費者に対して「伝える」「教育する」ことに対して予算と人を割くべきである。</u>県として、「かごしまから世界へ」通用するブランドをどう作るかを含めたビジョンにしていいただきたい。(曾於)	
7 その他	<補助制度等について> ○ てん茶に特化した支援だけでなく、茶業界全体を含めて<u>煎茶も維持できるような幅広い支援を望む。</u> (鹿児島・日置) ○ <u>製茶機械の更新を考えているが、以前の価格が1.5～2倍となっていることや、部品もすぐ調達できないと聞くため、その対応策などもビジョンに盛り込んでいただきたい。</u>(南薩) ○ <u>防霜ファン、スプリンクラーの老朽化や生産性の悪い茶園は荒廃が進むものと思うので、対策等も検討してほしい。</u>(南薩)	

	○ やる気がある生産者には助成するような仕組みがあればありがたい。国の改植事業が採択されなかった際、県が苗の助成程度でもしてくれるとありがたい。生産者は、改植により病害虫に強い品種や、優良品種に植え替えたい意向は強い。(北薩) ○ 荒茶加工施設の全体(製茶機械一式)でなく、<u>一部機械(単体機械; 例えば粗柔機)の更新ができる補助事業</u>を創設してほしい。事業の導入が可能になれば、処理能力が高まり、面積確保にもつながるので検討をお願いしたい。(北薩) ○ 降灰事業や輸送コスト支援事業の対象外であることから、種子島は機械の導入が難しく、コスト高等の影響を受けるのでどうにか軽減してほしい。(熊毛) ○ 干ばつ対応で水を使用したいが、水が通ってきていない場所があり、通水していても週に1回しか使用できず、葉温を下げる目的で潤沢に使えるわけではないため、秋芽の生育に影響がある。(大島) <茶園の集積・集約化> ○ 耕作放棄地や遊休地が増えていく中で、中々農地の流動化が上手く進まないの、行政が介入してスムーズにしてほしい。(熊毛) <観光との連携> ○ ビジネスホテルに泊まっても安価なティーバックばかりであるので、ホテルや旅館、観光施設と連携して「ウェルカムティー」として本当に美味しいお茶を提供してほしい。(曾於) ○ 消費量で鹿児島と静岡で差があるという話であったが、静岡のビジネスホテルでも客室に急須とお茶があって好評だと聞いているのでそうした取組は見習うべき。 (曾於)	
--	---	--